

全国の木材産地で進む 新たな生産体制・技術への取組

九州地方には、熊本・大分・宮崎・鹿児島といった木材の主要産地が集中しており、大消費地をターゲットとした規格品の大量生産・販売に向けた取組が、全国の生産地に先駆けて実施されています。また、四国地方においても、地元の森林資源の充実等を背景に、原材料を北米産丸太から国産材へと転換する動きを見せています。

このような状況の下、新たに開始された新生産システムに向けた取組は、豊富な国産材資源を背景として、一段と需要者ニーズに応えた製品生産を志向するものとなっています。近年、住宅の耐震性や製品の品質・性能に対する消費者ニーズの高まりにより、強度性能が明確で寸法安定性に優れた製品が求められており、このためいずれの取組においても、乾燥設備の充実などが急務とされています。

需要の変化に対応しつつ、コスト競争力のある製材品を生産していくこと。この目的にむかって、九州・四国地域の新生産システムモデル地域ではさまざまな取組が展開されています。

熊本県森林組合連合会をはじめとする熊本県内の林業・木材業者と集成材の有力メーカーである銘建工業(株)が協同で設立した「協同組合くまもと製材」を中核とした、地域材を利用した間柱や集成材ラミナの生産体制づくりを目指しています。

平成20年3月に完成した同協同組合の新工場は原木消費量年間5万³m³(一シフトベース)の生産を行い、平成22年度中に二シフト体制での操業、年間10万³m³の原木消費を見込んでいます。

原木の供給は、熊本県森連が窓口となっており、原木市場、森林組合、素材生産業者と協定を結んでいます。さらに、熊本県森連が同協同組合と協定を締結し、原木の在庫情報等を詳細に把握・伝達することで、安定供給の実現に向けた体制を構築しています。



協同組合くまもと製材の新工場

モデル地域

熊本

◆対象地域：白川・菊池川流域、緑川流域、球磨川流域、天草流域

モデル地域

大分

◆対象地域：大分中部流域、大分南部流域、大分西部流域、大分北部流域

新生産システムへの参加事業

機等の施設を拡充するとともに、生産設備についても増強を図り、「大分方式乾燥材」を独自ブランドとして生産・販売しています。「大分方式乾燥材」とは、乾燥時の表面割れを抑えるため、人工乾燥機で短時間の前処理乾燥を行ったものを、その後2〜3ヶ月かけて天然乾燥して製造するもので、製材品の内部割れがなく色艶が良いことが特徴です。

原木は、日田地域が全国有数の木材の集散地であることから、既存の木材市場の集荷能力と選別仕分け機能を活用しつつ、協定に基づく効率的な流通システムの整備を目指しています。



日田市森林組合の共販市場

